

MS-Word ファイルで原稿を作成する方は、このテンプレートを必ず用いて下さい。原稿の作成前・作成中は、必ずチェックシートを確認して下さい。

上マージン
20mm

欧文タイトルは、先頭の1文字および固有名詞の初めの文字のみ大文字として下さい。下の例では、J, S, E は固有名詞として大文字です。また、「全角文字」は使用しないで下さい。

構造工学論文集 Vol. 68A (2022 年 3 月) 報告

土木学会

左マージン
20mm

10pt

(1 行あける)
構造工学論文集の完全版下投稿和文原稿

ゴシック 14pt

の作成例

(1 行あける)

タイトルが 2 行にわたる場合、「段落」の「間隔」の「1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」のチェックを取って下さい。

Instruction for A4 size camera ready copy for
Journal of Structural Engineering

(1 行あける)

土木太郎*, 構造花子†, 工学二郎**

Taro Doboku, Hanako Kozo, Jiro Kougaku

(1 行あける)

欧文姓名は、Given, Family Name の順とし姓も名前も先頭の 1 文字のみ大文字として下さい。

著者間は、全て半角カンマ+半角スペースで区切って下さい。

タイトルには、「特殊文字、機種依存文字、ギリシャ文字、“～”」などの文字は使用しないで下さい。

*土木大学、工学研究科土木工学専攻博士前期課程（〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目）

†工博、建設大学教授、工学部建設システム工学科（〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目）

**博（工）、構造大学教授、大学院工学研究科構造工学専攻（〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目）

(1 行あける)

ト
ー
ク
ト
部
・
キ
ー
ワ
ー
ド
の
左
右
マ
ー
ジ
ン
に
も
2
5
m
m
余
分
に

This file shows the instruction to prepare the manuscript of Journal of Structural Engineering. You must prepare your manuscript carefully according to this instruction. Please use only A4 size paper. The number of pages and the size of your manuscript must not exceed 14 pages and 10 MB, respectively. For A4 paper, top, left and right margins are 20mm, and bottom margin is 25mm. The line spacing must be single. **Abstract should not exceed 10 lines** (approximately 120 words) and should be followed by 3 or 4 key words. The left and right margins of abstract are 25mm.

Key Words: use italic for key words, use gothic for the title, abstract format (do not exceed 10 lines), A4 size

キーワード：キーワード表記法、タイトル表記法、アブストラクト体裁
(10 行は超えないで下さい)、A4 判

明朝（斜体） 10pt

(2 行あける)

Times-italic
10pt

ト
ー
ク
ト
部
・
キ
ー
ワ
ー
ド
の
左
右
マ
ー
ジ
ン
に
も
2
5
m
m
余
分
に

1. タイトル部分のレイアウト
明朝 10pt (1 行あける)

タイトルページのフォーマットはこの作成例に従って作成して下さい。ページは A4 サイズとし、1 行目左側に「構造工学論文集 Vol. 68A (2022 年 3 月)」(報告や総説の場合には、全角スペース 1 文字の後に、報告や総説と明記して下さい)、右端に「土木学会」と 10 pt の文字を使用して記載して下さい。

和文のタイトル文字にはゴシック体 14 pt を使用します。以下、欧文タイトル、著者名、所属、論文等の連絡著者（論文等への質問に対して責任を持って回答できる著者、1 名）の E-mail アドレスを 1 ページ左下に明朝体 10pt または Times 10 pt の文字を使用して作成して下さい。このレイアウトでは、第 2 著者が連絡著者の場合を例示しています。また、連絡著者には*ではなく†を付して下さい。なお、次節に示すタイトルに関する注意事項を遵守して下さい。タイトル、著者名、所属はいずれも中央揃えとして下さい。

アブストラクトは所属の下 1 行あけて Times 10 pt の英

† 連絡著者 / Corresponding author

E-mail: hanako@kensetu.ac.jp

文で、10 行もしくは 120 words 程度を超えない長さで記載して下さい。アブストラクト部・キーワードの左右マージンは本文部分の左右マージン(20 mm)よりも 25 mm 程度余分にとって下さい。キーワードは英字、日本語の両方を 3, 4 個記載し、それぞれ Times-italic 10pt および明朝（斜体）10 pt の文字を使用して下さい（2 行にわたる場合は、インデントして下さい）。

(1 行あける)

1.1 タイトルに関する注意事項 ← ゴシック 10 pt

タイトルには、「特殊文字、機種依存文字、ギリシャ文字、“～”」は使用しないで下さい。なお、Microsoft Word 利用時に、タイトルが 2 行にわたり行間隔が広がる場合は、「段落」→「間隔」の「1 ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる」のチェックを取ること

で、行間隔を狭くすることができます。また、欧文タイトルは、先頭の 1 文字および固有名詞の初めの文字のみ大文字として下さい。例えば上の例では、J, S, E は固有名詞として大文字です。また、「全角文字」は使用しないで下さい。

(1) 著者名に関する注意事項 ← ゴシック 10 pt

欧文姓名は、姓も名前も先頭の 1 文字のみ大文字とし

左側に
2.06mm
の空き
あり

下マージン
25mm

右マージン
20mm

て下さい（姓をすべて大文字にしないで下さい）。

(1 行あける)

2. 本文のレイアウト

(1 行あける)

本文は、上に指示するマージンの内側に、総幅 52 文字を 25 文字＋スペース 2 文字＋25 文字の 2 段、50 行で作成するものとします。文字フォントに関しては、次節 3 に示す章、節、項の見出しはゴシック体 10 pt で記載し、本文に用いる文字サイズは、明朝体 10pt、及び算用数字については Times 10 pt とします。

(1 行あける)

3. 見出し（見出しが 1 行以上に長くなる場合には、この例のように折り返して下さい）

(1 行あける)

見出しのレベルは章、節、項の 3 段階までとして下さい。それぞれの番号には、4. 章の番号 4.1 節の番号 (1) 項の番号 のようにゴシック体を用いて指定して下さい。章の見出しは、その上下に 1 行あけ、節の見出しは、その上にのみ 1 行あけることを原則とします。ただし、ページや段が切り替わる部分は、見出しが最上部に来るように調整して下さい。

(1 行あける)

4. 数式および数学記号

(1 行あける)

数式および数学記号は次の式 (1a)

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

のように本文とは独立している場合でも、 C_d , $\alpha(z)$ のように文章の中に出てくる場合でも同じ数式用のフォントを用いて作成して下さい。本文中に出てくる数式および数学記号は、そのサイズを本文の文字と同等のものとして下さい。式はセンタリング、式番号は右揃えとして下さい。

(1 行あける)

5. 図、写真および表

(1 行あける)

図表は、原則として、それらを最初に引用する文章と同じページにおき、直接本文中に描画することを原則とします。また、図表は、ページの右上または左上にまとめて、図が文章の間にはさまらないような配置として下さい。

表は、例えば表-1 とし、表のタイトルとともに表の上に表示し、図は、例えば図-1 とし、図のタイトルとともに図の下に表示して下さい。図、写真および写真の番号、およびタイトルは、それぞれ明朝（または Times）10

表-1 表の作成例

試験体番号	板厚(mm)	板幅 (mm)
1	12	100
2	15	200

1 行あける

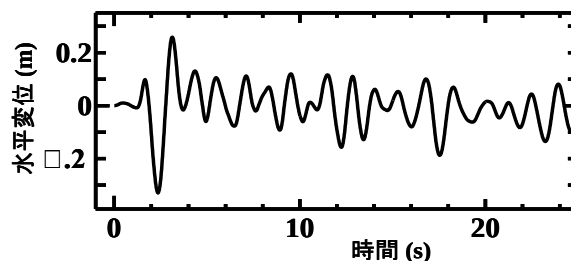


図-1 図の作成例

1 行あける

pt の黒色で記載して下さい。図・写真および表の本体はカラーでもかまいません。

(1 行あける)

謝辞 ← ゴシック 10 pt

謝辞を記載する場合には結論の後に記載して下さい。タイトル「謝辞」はゴシック体 10pt で記述し、謝辞の内容は明朝体（または Times）10 pt で記載して下さい。

(1 行あける)

付録 ← ゴシック 10pt

(1 行あける)

本文は、参考文献で終わるものとし、もし、付録を置く場合には、参考文献の前に置いて下さい。最終ページは、2 段組の両側の高さをなるべく同じ高さとして下さい。参考文献は ¹⁾この例のように、上付き右括弧付き文字で指定します。参考文献の最後に論文の投稿受付締切日である 2021 年 9 月 14 日受付と両括弧をつけて下さい。さらにその下に受理日を 2022 年**月**日受理と両括弧をつけて下さい。

(1 行あける)

参考文献 ← ゴシック 10pt

- 1) Gibson, L. J. and Ashby, M. F.: The mechanics of cellular materials, *Proc. Roy. Soc. Lond.* A382, pp.43-59, 1982.
- 2) Vitter, J. S. and Chen, W. C.: *Design and Analysis of Coalesced Hashing*, Oxford University Press, New York, 1987.
- 3) Y.C. ファン（大橋義夫，村上澄男，神谷紀生共訳）：固体の力学／理論，培風館，1970.

(1 行あける)

明朝 10pt

(2021 年 9 月 14 日受付)

(2022 年**月**日受理)

10pt

論文の投稿受付締切日である (2021 年 9 月 14 日受付) と受理日欄 (2022 年**月**日受理) を記入して下さい。